

# アンケート調査の分析結果で検討するネット依存とその指導の考察

東京都立江北高等学校 稲垣俊介

高校生のネットの利用状況や依存傾向についてアンケート調査をし、どういった生徒がネット依存となり、その生徒の学校生活に影響を及ぼすのか検討をした。また、本調査からネット依存やその影響には性差がみられることが示され、その性差に対する考察をした。今後、高校生のネット依存の予防するための方策を探ることで、生徒の個に応じたネット依存予防の情報教育の指導のあり方を考察する。

## 1. はじめに

### 1.1 高校生のインターネット利用と依存

高校生のインターネット(以下、ネット)の利用割合は、平成 27 年度青少年のインターネット利用環境実態調査(内閣府 2016)によると、スマホを使用してネットを1日に4時間以上利用する割合が19.8%であり、平均利用時間は157.7分である。スマホによるネットの利用内容について複数回答で調査した結果、高校生では、「コミュニケーション(92.0%)」、「音楽視聴(80.0%)」、「動画視聴(79.1%)」が上位となっている。これらの結果は、高校生にスマホが急速に普及し、またパソコンと違いスマホは常に手元に置くことができ、容易に利用できるためであると推測できる。

### 1.2 高校生のインターネット利用と依存

携行可能なネット端末であるスマホを片時も手放せなくなり、日常生活や社会生活に悪影響が及ぶ、いわゆるインターネット依存(以下、「ネット依存」)を問題視する指摘もある。総務省(2014)の調査によれば、高校生のおよそ6割がネット依存の傾向を呈しており、さらにネット依存傾向が高い生徒は身近な人間関係や社会生活について不満を有している割合も高い傾向がみられたという。

ネット依存傾向が生徒の対人関係や心理面と関連することを示唆する先行研究の知見を踏まえると、ネット依存傾向の高さは、学校生活における振る舞いにも何らかの影響を及ぼしている可能性があると考えられる。

### 1.3 研究の目的

本研究では、鶴田ほか(2014)が作成した高校生向けインターネット依存傾向測定尺度(以下、「ネット依存尺度」)の得点を説明変数、飯田ほか(2009)が開発した「学校生活スキル尺度(高校生版)」(以下、「学校生活スキル尺度」)の得点を目的変数とした重回帰分析の結果から、ネット依存と学校生活スキルの関連性を詳細かつ多角的に検討することを目的とした。生徒がネット依存であることによって、学校生活を送るにあたりどのような影響を受けているのか調査をする。

## 2. 方法と結果

### 2.1 研究の対象

ネット依存傾向と学校生活スキルの獲得状況に関する質問紙調査を2016年4月中に実施した。調査対象者は公立高等学校第3学年の生徒、306名である。有効回答者は283名(男子161名、女子122名)となった。

### 2.2 研究の対象

ネット依存傾向の測定には、鶴田ほか(2014)による「ネット依存尺度」を用いた。ネット依存尺度は全39項目であり、4件法で回答を求めた。下位尺度得点はそれぞれ、精神的依存状態( $M=1.81$ ,  $SD=0.50$ )、メール不安( $M=1.63$ ,  $SD=0.59$ )、長時間利用( $M=2.38$ ,  $SD=0.62$ )、ながら利用( $M=2.09$ ,  $SD=0.55$ )、対面コミュニケーション不安( $M=1.82$ ,  $SD=0.62$ )であった。

### 2.3 学校生活スキル尺度

学校生活の状況に関しては、飯田ほか(2009)による「学校生活スキル尺度」を用いた。学校生活スキル尺度は全49項目であり、4件法での回答を求めた。下位尺度得点はそれぞれ、コミュニケーションスキル( $M=2.86$ ,  $SD=0.49$ )、進路決定スキル( $M=2.82$ ,  $SD=0.44$ )、自己学習スキル( $M=2.78$ ,  $SD=0.48$ )、集団活動スキル( $M=3.36$ ,  $SD=0.40$ )、健康維持スキル( $M=2.84$ ,  $SD=0.49$ )であった。

### 2.4 各下位尺度得点の性差

ネット依存傾向尺度と学校生活スキル尺度それぞれ5つの下位尺度得点を従属変数、性別を独立変数とする1元配置多変量分散分析を行ったところ、どちらも有意な多変量主効果が認められた。つまりどちらも女子が男子に比べて得点が高いことが示された。

ネット依存と学校生活スキルの男女の相互相関によると、ネット依存尺度の下位尺度間での相関をみると、男女ともに精神的依存状態と長時間利用や対面コミュニケーション不安、長時間利用とながら利用との間に強い正の相関がみられた。女子のみの特徴として、メール不安と精神的依存状

態や長時間利用との間に強い相関がみられた。また、ネット依存尺度と学校生活スキルを含めた各下位尺度では、男女ともに対面コミュニケーション不安と学校生活スキルとの間に負の相関がみられた。男子ではネット依存と学校生活スキルの間ではそれらの相関がみられるにとどまったが、女子では精神的依存状態、メール不安、長時間利用、ながら利用においても学校生活スキルとの間にも負の相関がみられた。

これらの結果から、ネット依存と学校スキルの関連性は男女間で異なる様相を示すことが推察される。そこで、ネット依存傾向尺度の5つの下位尺度が学校生活スキルの5つの下位尺度に及ぼす影響およびその性差についてより詳細に把握するために、男女別にネット依存傾向尺度の下位尺度得点ならびに1次の交互作用項を説明変数、学校生活スキルの下位尺度得点を目的変数とした重回帰分析(強制投入法)を行い、それぞれの標準偏回帰係数と有意水準を算出した。その結果、男子女子ともに、対面コミュニケーション不安が学校生活スキルの下位尺度に全体的に影響を与えている傾向が示された。さらに対面コミュニケーション不安以外を個別に確認をすると、男子では長時間利用が自己学習スキルへ、女子では精神的依存状態が集団活動スキルへ影響を与えている傾向が示された。つまり、男子は主として対面コミュニケーション不安と長時間利用が学校生活スキルに対して負の影響を与えているのに対して、女子は、対面コミュニケーション不安と精神的依存状態が負の影響を与えており、対面コミュニケーション不安のみ共通ではあるが、男子と女子では、ネット依存が学校生活スキルへ与える影響の様相が異なることが示された。

### 3. 考察

調査の結果から、ネット依存の下位尺度である対面コミュニケーション不安が学校生活スキルに全体的に影響を与えている傾向がみられた。また、関連がみられた下位尺度の内容は男子と女子で異なるものがあることが明らかになった。具体的には、男子ではネットの長時間利用が自己学習スキルに対して影響を与え、女子はネットに対する精神的依存が集団活動スキルに影響を及ぼしていることがわかった。

男子では、長時間利用と精神的依存状態やながら利用との間に比較的強い相関がみられた。一方、メール不安との間の相関はどの下位尺度も弱かった。これらの結果を考慮すると、男子ではメール以外の用途で行われる長時間にわたるネット利用が、自己学習スキルに影響を及ぼしている可能性が示唆される。また、内閣府(2015)の結果を踏ま

えると、ゲームやネット動画視聴などに対して精神的依存状態に陥ったため、長時間にわたるネット利用をするようになる、自己学習スキルに影響を及ぼしていることが推察される。

女子では、精神的依存状態は他のネット依存の下位尺度と比較的強い相関があり、特に長時間利用とは強い相関がみられた。また、長時間利用はメール不安やながら利用とも比較的強い相関がみられた。あくまで推測の域を出ないが、対面のコミュニケーションに対する不安の反動としてメールを多く利用し、そのメールのやり取りによってさらに不安が生じ、その不安から長時間にわたり利用することとなる、こういった循環が精神的依存状態へと繋がり、集団活動スキルが低下しているのではないかと推察できる。また、メール不安と対面コミュニケーション不安がコミュニケーションスキルに負の影響を与えている点についても、対面コミュニケーションに不安を持ち、さらにメールに対しても不安があるからこそ、コミュニケーションスキルに対して、負の影響を与えている可能性があるかと推察できる。

### 4. まとめ

本結果から高校生のネット利用や依存傾向の予防に対する指導のあり方を考える上では性差を考慮した施策を講じることが効果的であると考えられる。ネット依存傾向が学校生活スキルに及ぼす影響には性差があることを生徒に認識してもらい、どのような予防策を講じればよいのかを生徒間、特に男女を交えた話し合いをする実習授業等を展開することで、ネット依存の負の影響や自分自身の状況、そしてさらには性差の問題に対する洞察を促す契機となることが期待される。特に女子におけるネットの精神的依存は生徒間のSNSなどを通じたコミュニケーションから生じる問題であるため、例えばコミュニケーションし合う友人どうしでこの点について話し合いをすることで、精神的依存状態を招くようなコミュニケーション不全の状態になることを防ぐための一定の効果があるのではないかと考える。

#### 参考文献

- (1) 飯田順子, 石隈利紀, 山口豊一 高校生の学校生活スキルに関する研究 学校心理学研究 9(1): 25-35 (2009年)
- (2) 内閣府 平成27年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 (2016年)
- (3) 総務省 高校生のスマートフォン・アプリ利用とネット依存傾向に関する調査 (2014年)
- (4) 鶴田利郎, 山本裕子, 野嶋栄一郎 高校生向けインターネット依存傾向測定尺度の開発 日本教育工学会論文誌 37(4): 491-504 (2014年)